

You are what you eat.

—京都で育む受信力—

ジェフ・バーグラント

1. はじめに —eat は「受信する」という意味—

皆さん、こんにちは。ジェフ・バーグラントです。しばらくの間よろしくお願ひします。

日本語しゃべっているの、わかりますね。日本語しゃべってますよ。日本語というのは相づちがないとしゃべりにくいものですから、うなずいてくださいね。

ちょっと英語でしゃべると、「You are what you eat. 京都で育む受信力」。声の高さが違うってわかりますか。「You are what you eat. 京都で育む受信力」。日本語のほうが高いですよ。高いのは、外国語なんです。外国語ですけど、皆さんより長く使っているんですけどね。47 年間日本語を使っていますから、ここに座っている小さい子よりもずっと先輩です。

でも、今でも緊張するんです、外国語をしゃべるといのは、自分の生まれ育ったところの言葉といのは難しいんですよ。日本語で母語と使うのですが、母語といのは母親の言語なんです、母親の言語と子どもの言語が一致するかしないかといのは、状況によって違いますからね。母親の言語と家の外の言語が違おうとすると、家の外の言語を覚えたほうが得だとい考え方が強かったら、母語を余り教えないで、例えばアメリカで生まれた人は英語のほうがいいから、例えばベトナムから移民してきた人はベトナム語を使わずに英語をメインにすると、ベトナム語をしゃべらないようになる。よく言うのが、移民してくる 1 世はもとの国の言葉が使える。もちろん聞き取れる。多くの場合は字も書けます。

今日は言語についての話じゃないんですよ。言語についての話じゃないんですが、演題に食べる、eat という動詞を使っているんですが、eat というのは英語で非常に広く使われます。eat というのは受信するとい意味

なんです。どちらかといと、I ate her with my eyes. 目で彼女を食べた。日本語でもいけそうな感じですけどね。

江戸時代の糸屋の娘さん、皆さんご存じですか。「大阪本町糸屋の娘、姉が十六妹十五」。「大名は弓矢で殺す」。起承転結を紹介する代表作なんですよ。もう一遍いきます。「大阪本町糸屋の娘」これが起。承、「姉十六妹十五」。転、「大名は弓矢で殺す」。えらい転じてますね。結、「娘は目で殺す」。英語で目で殺すといのが、目で食べるとい英語になるんですよ。この eat というのは受信するとい意味なんですよ。

言語が世界で 7,000 ほどあるんです。(割愛) 産業革命のころには 2 万ほどありました。今現在で言くと、1 週間に 2 言語、年間で 100 言語が消える。言語が消えるといのは、最後母語としてその言語が使われていた人が死ぬ。場合によって維持するために言語学者がビデオを撮ったりはするんですが、大変なんですよ。だんだん産業革命から減って、2 万ほどが今、7,000 ほどに減りましたが、その中で私は英語とい言語で大きくなったのですが、日本語とい言語と出会って、すごくうれしく思うようになったんです。

2. 同志社での日本語そして 女子大生活科学部との出会いと交わり

生活科学部の 20 周年、今、西村先生の話聞いていたら、1912 年から、明治時代から始まる、新島先生から始まる流れが 100 年以上になるんですが、お招きいただいたときに、すごくうれしく、同志社とい、ずっとお世話になった学校にもう一遍行けて、女子大やからきくと聞いてる人は女性の人のほうがずっと多い。女子が多いところは話しやすいんです。うなずいてくれるし、すごく応援の目で見えてくれるんですよ。男性といのは割と厳しい目で見るとは。西村先生はずっと女子大にいらっしゃるからわかると思うんですが、女子大のほ

うがいかにやりやすいか。男性ばかりのところにいくと、何か厳しい目で見られる。だから、きょうはとても朝からルンルン気分です。(割愛)

3. 受信力から生活科学部の研究対象 (自然環境～人間・社会環境) を考える

皆さんの生活を全面的に考える生活科学部、食物、食べているものから、人間関係から、社会とのかかわりから全部考える学部なんです。きょうはそういう話を受信力、受信することから考えていきたいと思っているんです。

私は日本に最初来たのが1969年、昭和で言うと昭和44年ですが、大変驚いたんです。日本はアメリカとかなり違うコミュニケーションなんです。僕の生まれ育ったところと日本がどれだけ違うのか。「へえ」という声を出してくれます？20歳で日本に来たんですが、20歳という年で、生まれて初めて傘をさした。(へえ)。でも、20歳まで傘ささないというのが気になりませんか。20歳まで傘ささない人、手を挙げて。いないでしょう。

(1) 生活文化は自然環境によって強く影響される

世界を旅すると、世界の人たちの文化という言葉、今、川崎先生が使いましたが、文化というか、常識というか、自分の生活に密着した自分の知恵というものがやっぱり自然環境に随分と関係してくるんですよ。それをあんまり私たちは考えずにいるんですよ。

例えば中東にいる人というのは、一生に1度も風呂に入らないんです。砂漠に住んでいたら、風呂に入れないんですよ。水は貴重なものですから、湯気を出して、湯気で体をきれいにするんですよ。ためたものはもったいないんですよ。

私は20歳まで何で傘をささないかと言うと、アホヤからとは違います。雨のあんまり降らないところで大きくなった。何で雨が降らないかと言うと、雨の材料がない。海まで遠いんです。海まで2,500キロ。自然と「へえ」ぐらい言うてほしい。稚内から熊本までが2,300キロ、私の家から海までが2,500キロ。(へえ)。海水浴行こうかいうて、京都でも海水浴に1時間半か2時間ぐらいかけて日本海へ行ったりするんですが、2,500キロです。

車に乗って1日500キロ走って5日間走るんですよ。やっと海について、ちょっと泳いだら、また帰り5日間。2,500キロですよ。アメリカのちょうど真ん中の場

所ですから、雨の材料がなくて、ほとんど雨が降らない状態なんです。

内陸ですから、冬は零下30度、35度ぐらいまで下がります。零下25度を超えると小中学校が休みになります。大体高等学校も大学も休みなんです。法律で25度。零下25度ですよ。零下25度でビールが凍るんですよ。ビール瓶を外に出したら、ボンと凍って飛びますから。アルコールも飛びますよ。ウォッカとかは凍りませんけどね。だから、ロシア人は零下40度ぐらいのところでウォッカ飲んでます。

いいですか、零下30度まで下がるんですよ。25度を超えたら小学校休み。小学生は何しているかという、外で遊んでいる。矛盾する。寒すぎて学校へ行けへんいうて、何しているかいうと、外で遊んでいる。小さいときにいつもそれを不思議に思っていた。

でも、この世の中は矛盾だらけなんです。私は日本に来て47年、新しい本、『受ける日本人 繋がる日本人—いま、世界に伝えたい受信力』という本を四、五年前に出しましたが、その本の前書きのところに書きましたが、47年間、日本で恩恵を受けて一番お世話になっているのは、矛盾の心を受け入れること。日本人は矛盾を楽しんでいる。25日のクリスマス礼拝に出て、31日は除夜の鐘で、1日は神社。何の矛盾も感じない。矛盾も喜ぶ。だんだんイスラム教も入ってくると思うんですよ。私が来たころはハロウィンとかイースターとか、何にもなかった。最近すごいですよ。ハロウィンの行列、大学でみんなハロウィンどうする？パーティ。そういう矛盾を受け入れる心というのが、日本に着いた日、1969年6月に驚くほどわかりました。

傘さしたことの無い人間、朝から晩まで降るんですよ。梅雨時、一番最初に覚えた言葉というのは、ベタベタ。空気がひっついて取れない、状態ですね。これ生まれて初めてなんですよ。自分の生まれ育ったところは空気があっさりしています。生活科学部の学生に言うてください。5人家族だったらシーツを上下10枚。アメリカの洗濯機は大きいんですよ。10枚一気に洗えるんですよ。10枚のシーツを全部洗って干すんです。洗濯バサミでとめていきますね。10枚目のシーツをとめているときに1枚目のシーツが乾いている。ほんまですよ。日本の乾燥機よりずっと速い。日本の乾燥機は、先に乾燥機の中の空気を乾かしてから服を乾かす。空気が湿っているからね。一番最初、日本の驚きというのは自然環境が違う。これを私たちは自分の生活で毎日受信しているのに、あまり考えてないんですよ。

学生に聞きますね。人間にとって一番大事なものは何ですかと、毎年外大の学生に聞くんです。人間にとって一番大事なものは。(水, 食事, 食事。)最後の2人がおもしろい。食事? 最後, 食事。水, 食事が出ましたが、普通出るのは夢とか、役に立つこととか、愛, ラブですね。そういうのが普通は出てくるんです。でも、きょうはこういう演題で、こういう中やから、水? 食事?

一番大事なものは酸素なんです。酸素は3分なかったら死にます。水は3日間、食事は大体3週間なかったら死にます。一番大事なんです。

(2) 最近の若者は空気が読めない、受信力が落ちてきている

きょうの朝、目が覚めて、手を合わせて、酸素ありがとうと言った人、挙手。言っていないでしょう。でも、すごく大事なんですよ。日本に来てそれを感じたんです。半分冗談でベタベタ、空気がひつつく。でも、空気って考えたことなかったんですよ。初めて空気を考えるんです。日本語で空気というと、英語で air という実際の空気と atmosphere という空気を読む。最近の若い子は KY, 空気を読めへん。一番読めへんのは若い子やで。読む練習をしてないからね。受信力が日本は落ちてきているんです。

日本は受信者責任型文化なんです。受信するほうが責任を持って解読しないといけない。きょうのこの場にどういう服装で来るかというのは、学生が例えば T シャツに短パンにゴム草履で来ない。きっちりした服装で、きっちりした履物で、やっぱりそういう場だと受信しているんですね。これが日本の文化の根底なんです。だから、空気を読む。空気というのは本当は酸素やな。その酸素を私たちは必要とするのですが、日本人は特にこの酸素についてあんまり考えないんです。というのは、いっぱい木があって、私たちが吐き出す二酸化炭素を酸素に変えてくれるものがいっぱいあるんですよ。非常に日本の空気がおいしい。非常に酸素いっぱい、それを47年前に感じたんです。空気がいい。でも同時に、ベタっとひつつくというこの空気は初めてやから、それで1日が始まるんです。

水も違いますね。日本はどちらかという、水が世界で非常においしいほうに入ります。今、地下鉄とか市バスに乗りますと、京都市が出しているちょっとした広告、皆さん見ていると思うんですが、国際水準、水準の水というのは「水」と書いていますね。いわゆる京都市

が出している普通の水道水が世界に持っていくとおいしいんですよ。日本人はみんなペットボトルでミネラルウォーターを買ったりするんですが、実は京都市が出ている、琵琶湖から来ているあの水が非常に世界水準から言うとおいしい水なんです。だから、水も酸素の次かな。3つ目には食事です。人間にとって大事です。でも、まだまだあるんですよ。重力も大事です。あしたの朝、目が覚めたら、皆さんぜひ酸素ありがとう、重力ありがとう。重力なかったら浮くんです。生活できないんです。

(3) 日本人は昔から自然界のメッセージを解読して文化を作ってきた

そのほかに、私が47年前に来て下宿しました。京都の下宿のおばさんが岡山出身なんです。京都ではないんです。でも、京都に長いこと住んでいましたから、その人が、あなたの部屋は東向きやから、窓が東向きやから、朝起きたら、必ず手を合わせて「お天道様ありがとうございます。きょうも1日よろしくお願いします」。すぐ覚えた言葉です。お天道様によろしくお願いします。聞いているのかどうか。でも、キリスト教出身やから、神様が聞くんだったら、太陽も聞いてくれると違うかなという気持ちがある。もともと日本人は非常に自然界とともに生活して、それを受信すること、自然界のメッセージというのは言語ではない。非言語です。自然界が「昼で一す」「夜で一す」「雨で一す」と言わないんです。自然界というのは受信者が解読しないといけない。日本人は、古くからその自然界のメッセージをずっと解読して文化をつくってきました。

古いカレンダーを見ると二十四節気七十二候が書いてあります。二十四節気というのは季節の節と書いて元気の気と書くんですね。元気の気を自然界からいただく。例えば端午の節句は二十四節気の1つ。七十二候、72もあるんですよ。これは気候の候と書くんですが、小さな自然界の動き。例えば鴨川べりに住んでいるのですが、この七十二候の中に魚が見える日というのがあるんです。冬の間はほんまに魚が見えへんのです。いるんですよ。いるんだけど見えへん。ちょっと春先になると、動くからかわかりませんが、突然魚がいると見えるんですよ。カレンダーを見ると、ちょうど。あれはみんな中国から来ましたから、4つの文字で魚が初めて見える日という日があるんです。これが日本の文化の一番原点です。自然界の情報を受信して、これが生活科学部にとっては一番原点だと思います。いわゆる自然界の恵みをい

ただ。そのいただく読み取り方を教えるお仕事だと思うんです。人間としてどうやって読み取ったらいいのか。例えば食事の場合は栄養バランスをどう考えるか。受信したものを分析したりすると思うんです。

4. 日本は受信者責任型文化と優れた受信力

(1) アメリカは極端な発信者責任型文化

私は発信者責任型文化のところから来た。アメリカは極端に日本と違う。発信するほうが言葉を持って、はっきりと伝えないといけない責任がある。だから、場を読まない、間を読まない、自分を主張する、聞く耳を持たない。日本人は大きな耳を持っています。ずっと受信して受信して受信する。それが日本に着いた日に驚くほどわかりました。

山手線に乗りました。山手線ご存じですか。ぐるっと同じところに戻ってくる。何周しても値段一緒です。1969年6月、一番最初、着いた日に山手線に乗った。70円でしたかな。70円で2周したんや。1周目、内側を見て、一つ一つ有楽町とか、おもしろそうな場所を見つけると手のひらに書いて、10日間東京にいましたから、その後、そういう駅に降りて探検したんです。最初の日はどういうところを探検したいのか、そういう気持ちで山手線、内側1周見て、次は外側を見て1周して、電車に乗っていると結構長いですよ。

私の隣のサラリーマン風のネクタイを締めた男性の方が立ったまま本を読んでいるんです。私は20歳で初めて傘をさしただけじゃなくて、初めて電車にも乗るんですね。電車ってないんですよ。アメリカ東部と西部の一部だけ、例えばサンフランシスコはちょっとある。ロサンゼルスはつくったんですが、あんまり使う人がいない。ニューヨークが一番中心ですね。ワシントン、ボストン、ニューヨーク、あの周辺に電車が走るんですが、中部というのはいない。家の隣まで3キロあります。大学まで1,000キロ。だから、アメリカの国内・国際線の飛行機、アメリカの飛んでいる飛行機、国の中と国際線と全部、それと世界の全部の飛行機は天秤にかけたら一緒です。それだけアメリカは飛行機なんです。毎日何万便と飛んでいます。すごい飛行機なんですよ。

(2) 日本の受信者責任型文化

だから、電車に乗ったことない。電車はおもろいなと思ってね、ちょっと揺れながら見えるんです。隣の人が立ったまま本を読んでいるのや、すごいなと思いがら、その人の傘が前に座っている人のところに倒れた。

私は受信者責任型を知らないから、発信者責任型のシナリオが頭の中に、座っているほうが「こら、あんたの傘が倒れてきて、足濡れてるやんか」、ちょっと舌を巻いて怒る。立ったほうが「傘ぐらいで文句言うな、そんな足濡れてへんやろ」と来ると思ったら、座っている方が「えへん」と咳払い、発信はこれだけ。1回だけ、「えへん」、これだけ。立っているほうは本に集中しているはずですよ。本を読んでいるのにもかかわらず、「すみません」とすぐ直した。何でわかる。これが不思議で、これを最終的に私は「受信力」という言葉をつけたのです。

異文化コミュニケーション学の中でハイコンテクスト、ローコンテクストという言葉を使うのは嫌いなんです。最初聞いたときから、もう30年以上前。皆さんに聞きます、ローとハイ、どっちか選んでくださいね。一般的ですよ、何でもいいんです。ハイとローという言葉、ハイとローで聞くんです。高い、低い。ハイがいい人。ローがいい人。

私もローがいいんです。高血圧なんです。毎日薬を飲んでいるから、ローのほうがいいんですよ。ダイエット中の人、ローのほうがいいんです、体重を落としたいから。でも、一般的にハイというのを好意的に見るんですね。アメリカの高校生に異文化コミュニケーション学、コミュニケーションについての専門家はハイコンテクスト・コミュニケーションとローコンテクスト・コミュニケーションという言葉を使うのですが、皆さんはどっちですかというと、ハイです。すぐコミュニケーションをとるから、それが本当はローコンテクストです。ローコンテクストというのは言葉をよく使う、発信するほうがローコンテクスト。あんまりしゃべらないで一生懸命受信しているのはハイコンテクストです。ハイとローという言葉がみんなハイになりたいと言うから、変えようとしたんです、30年間。

やっとなづいて僕がつくった言葉なんです、受信者責任型と発信者責任型。だから、皆さんきょう初めてその言葉を聞くというのは当たり前。学会で、ちょっとは言うてますよ。言うていますが、ほかの人はまだ使わないから。日本は受信者責任型文化、受信者責任型コミュニケーション、受信者責任型の自然界との接し方。私の生まれ育ったアメリカは発信者責任型、発信者責任型文化、発信者責任型コミュニケーション、発信者責任型自然界とのつき合い方。人間は自然界を支配する、聖書にそう書いてある。創世記の6日目に人間をつくった。人間をつくったところにそれまで神様がつくったものを支

配すると聖書に書いてあるんです。だから、全然違うんです。

日本に来て、「えへん」、傘をすぐ直す。何でわかるんですか。それが不思議で仕方がない。それで日本を研究したい、ずっといたい。日本にいとだんだん自分も以前よりも受信力がつくんです。ちょっとつくんです。発信者責任型から考えたら、絶対とれない。「この間ありがとうございました」「いやいや、こちらこそ」。この前って3年前の話。英語でこの間、この間という英語は絶対使わない。受信者が責任を持って、3年前の話をするんやなど。

(3) 日本の人間関係中心文化と受信力

新幹線に私が京都から乗りまして、大阪発の東京行き新幹線。京都と名古屋の間に、私の前に座っている男性2人の窓際の人がトイレへ行かへったんです。トイレに行くときに、「ちょっとすみません。」これもおもしろいですよ。年齢がわかるんですよ。僕の年齢の男性というのは、必ず右手が動くんです。若い女子学生がこうなると、ちょっとおっさんばい。「ちょっとすみません」と言うて、トイレへ行っただです。帰ってきて、ここが驚きなんです。「いつもすみません」。いつもすみませんで、1回しか通っていない。でも、受信者責任型から見ると、いつもすみませんという言葉が、前から人間関係があったと受信するんです。いつもすみませんというのが、いつも前から人間関係があった。だから、しゃべれるんです。それまでこの2人は知らない者同士だから何もしゃべってない。トイレから帰ってきて、いつもすみませんと言うて座ったら、「君、きょう東京までですか」。窓際の人通路側の人より一回りぐらい上。日本人はしょっちゅう年齢を聞くんですよ。外国人がみんな文句を言う。プライバシー、お幾つですかというのは、給料何ば、年収どれぐらいですかと同じぐらいのショックを受けるんですよ。体重どれぐらいですか、なんでやねん。でも、日本人は年齢がわからないと敬語を使うか使わへんかと。だから、明らかに下とか、明らかに上というのは年齢を聞かへんけど、微妙なところ。

この間、400人ぐらいみんな会社役員なんです。ほとんど男性なんです。一番前に座っている男性を見たら、同じぐらいの年齢やと思って同じ話をしたんですよ。しょっちゅう年齢を聞くんですが、日本人はお幾つですかと聞かへん。「私、丑なんです、何年ですか」。向こうは子と言うたんです。さようでございますかと言うたんです。向こうは11下の子です。1つ上の子だと勘違い

した、11下やった。間違いました。僕のほうがずっとお兄ちゃんや。その新幹線の2人も窓際の人明らかに上やから、「君、きょう東京までですか」と聞くんですよ。向こうは、「いや、東京に戻るんです」「君、東京の人。わし大阪やねん。今日とんぼ返りや」。向こうは、「そうですか」。「東京どう」、東京で生まれてずっと東京なんです、こういう話をするんです。それぐらいしゃべると、日本人のお仕事をなさっている方の儀式が、名刺を取り出して名刺交換するんです。知らない者同士から。名刺を出したら、窓際の人名刺をもらって、席を立て、大変失礼いたしました。後ろから一生懸命名刺をのぞくと、代表取締役社長と書いてある。若いほうが代表取締役社長、窓際は多分課長とか部長とか。会社の規模が違うと思うんですよ。それでも代表取締役社長やで。代表取締役社長のほうが年齢が若くても敬語を使わんといかん。こんな国、おもしろいで。

常に私たちは環境に対応しないといけない。人間だけではなくて、生き物みんなそうです。(割愛)人間は自然界だけじゃなくて、私たちがつくった環境も受信しないといけないんです。どちらかという逆。自然界を置いて人間関係中心になるんです。人間関係を読まないといけない。読まないで生活ができない。

5. 異文化コミュニケーション研究

(1) 異文化コミュニケーション学の基本

僕が感心するのは、生活科学部は2つに分けていますでしょう。一つは自然環境との対応の仕方、もう一つは人間環境との対応の仕方、これが一番わかりやすい。異文化コミュニケーション学の中でも分けるんです。言語を使ったコミュニケーションと非言語を使ったコミュニケーション。非言語のほうがずっと多いんです。どっちの学問も私たちがもっとよい関係が結べるように研究しているんです。私の学問で言うと、非言語コミュニケーションをちょっと意識すると、コミュニケーションがとりやすくなってくる。

例えば男性と女性。異文化コミュニケーションを聞くと、皆さんは日本人と外国人のコミュニケーションというイメージがあると思うんですが、当然それはあります。だから、きょうは京都で育む受信力というものがある日本人としての題名なんです、でも、異文化コミュニケーション学というのは、一番基本にあるのは男性と女性の性文化と年寄りや若い人の年齢文化、この2つが赤ちゃんが産まれたときから生じるんです。自分の親が自分と同じ性の親と反対の性の親。それから親とかなり年齢

が違うから、人生体験が違うから、常識が違う。常識が違うと価値観が違う。常識、価値観で人間を見る。

(2) 常識と価値観で人間を見る

ちょっと皆さんの常識をちらっと見ましょうね。皆さんがどこか遊びに行ったときに、誰かの家に呼ばれて行ったときに、靴を脱いで、その靴をしゃがんで向きを直すという方、手を挙げてください。皆さんはちゃんとお母さんに教えてもらっているんですね、ちゃんと靴を直すんですよ。常識というのは、その文化グループの中で70%かそれ以上の人たちがそれをする。またはそれを持つ、またはそういう考えである。70%かそれ以上、これを常識と定義します。今、はるかに70%を超えましたから、皆さんの常識として、人の家に行ったときに靴を脱いで、しゃがんでこの靴の向きを直す。場合によって若い子は、本当は家に向かって靴を脱いで、上がって、しゃがんで直すのが一番常識やけど、最近、若い子で反対にお尻を家に向けて、脱いだままで、もう揃っているからね。本当はこれはあかと僕は思うのですが。でも、僕の常識は47年前に来ましたから、「お天道様ありがとうございます。きょうも1日よろしく願います」ぐらいの世代ですからね。

皆さんの常識をもう一つ聞きます。自分の家に、自分のマンションに、自分のアパートに、自分の部屋に帰ってきて、靴を脱いでから、しゃがんで向きを直す人。(挙手) 大体年齢がわかる。でも、今日は若い人多いんですね、しかし全体は全く70%届きませんね。僕が来たときは、日本語の授業で覚えた「行ってきます」と言うて怒られたんですよ。「行ってきます」が使えるのは大黒柱のおじさんだけやぞ、あなたは「行ってまいります」でしょう。僕はいつも行ってまいります。東京物語、1957年の小津安二郎さんの映画なんですけど、見たら、娘さんが絶対「行ってきます」とは言わへんのですよ。「行ってまいります」。「お父様、お母様、行ってまいります」。常識が変わるんです。この常識が変わるのが一つテーマとして私は見るんです。常識が変わってきました。今の若い子で自分の靴を直すのはほとんどいないです。

言葉も変わります。「お持たせですが」という言葉を使ったことある人。(挙手)「お持たせですが」の意味わかる人。(挙手)あとでスマートホンで調べてみてください。標準語です。今、使っているのは京都しかないからね。「お持たせですが」ってどういう意味ですか。京都はよく和菓子を持っていくんですね。来るとわかって

いるから、こっちも和菓子を用意していますよ。用意していますが、お客さんが持ってきた和菓子が、やっぱりお客さんの目が高い。末富さん(和菓子屋)を持ってきた。あなたが持ってきたものをあなたに出すのは失礼ですが、用意してたんですよという気持ちも入っているんです。「お持たせですが」というのは本人が持ってきたもの。僕がびっくりしたのは、学生のところに和菓子を持っていった。自分の学生にですよ。持っていったんです。その学生が僕に出すときに、「もらいものですが」と言う。もらいもの違うやろう、わしが持ってきたものやで。お土産でももらいものでもない、「お持たせですが」と言わんといかん。この言葉が常識ではないぐらい少なくなりましたからね。

(3) 京都のすごい受信力に驚く

本当は私たちが京都のすごい受信力、すごい受信力です。もうびっくりする。今、住んでいる家が、さっき川崎先生が紹介してくれましたが、鴨川べりの二条と御池の間なんです。江戸後期です。私よりはるかに長く生きてる。もう大変です。介護なさっている方、親の介護、わかるでしょう。大変だと思います、親の介護。ごつつ古い、ごつつ大きい親、あの家が。ああいう町家の世話をするとというのは大変なんですよ。屋根も新しくしないと雨漏りするから、雨漏りしたら家の寿命が短くなって、大変なんですよ。

一生懸命やりますが、その前に住んでいた家が川端丸太町のすぐ近くなんです。その川端丸太町に住んでいるときに、小さい家ばかりなんですよ。小さい家ばかり並んでいるところで、1人のところが外車を買うたんです。近所の噂になって、どこからお金が出たんや。妻が買い物に行くと、井戸端会議。どこからお金出たんやろう。いろんな噂が流れるんですよ。きょう流れている噂は、親戚が亡くなって遺言とかでお金を相続したんや。その次の日は、宝くじ当たったんとちやうかという噂もある。いろんな噂が流れるんですよ。

ちょうどそのときに僕のアメリカの友達遊びに来てたんです。その人が弁護士なんです。その人は同志社大学の大学院に行った人なんですけど、今、アメリカのハーバードの法学部で教えているんです。その人も弁護士やから、弁護士というのは極めた発信型の人なんです。全部言葉にする。契約書で800ページとかの契約書を書くんです、すごい契約だね。誰が読むかというより、誰が書くのか。書くのがその友達なんですよ。だから、すごく言葉を大事にする人なんですよ。

その友達と2人でジョギング行こうと思って準備体操しているときに、近所のおばさんがほうきで道を掃除してたんですよ。外車の人が家を出て、車に鍵をさしたところで、おばさんが「いい車ですね」と言うて、その返事が「ローンで買ってます」。友達は何でも周りにしゃべってる人が何をしゃべっているか通訳してほしい。そのまま通訳したんですよ。それを聞いた彼は「何の関係があるねん。」京都の人やからすごく読んでる。近所の噂になっている。近所の噂になっているのはここでちゃんと言わんといかんから、挨拶されたら、ローンで買ってます。これは京都ならでは。京都ならではの受信力なんです。よく京都は悪く言うんですよ、腹黒って。腹黒と違うんですよ。もう深い深い読みをずっとしているんです。しんどなるぐらい。

(4) 京都の極めた受信力、極めたコミュニケーション

僕が最初に京都へ来たとき、ほめられたら謝れ。これは京都のことわざみたいなものでした。近所のおばちゃん、近所の若奥さん、「僕ちゃんピアノ上手にならしたな」。全国の人には「いいえ、まだまだです」と謙虚に。京都の人は違いますよ、「申しわけございません、やっぱり聞こえているんでしょうか」。ピアノ上手にならしたというのは聞こえているということですからね。そこまで環境と対応せんとはいかん。

だから、異文化コミュニケーション学から言うと、京都はたまたま場所なんや。極めた受信力、極めたコミュニケーション。コミュニケーションは発信と受信やからね。受信を勉強するならば京都や。その情報というのは全部英語で食べる、eatと言う。でも、その情報で自分というものができ上がっていくんですよ。京都の人は非常に文化レベルが高い。文化水準が高いというのは、いいものを食べている。いいものを食べているというのは、例えばしっかりとお食い初めを赤ちゃんにやる。お宮参りした神社の石を拾って、その石をお湯で消毒して、赤ちゃんの口にその石を当てて、そしてその日に取ったおいしいものをちょっとずつ当てて、おいしいものがわかるように。京都はすごいんですよ。環境との対応の受信型を極めた場所として、食べるものにしろ、見るものにしろ、すごいんですよ。

京都に来て、初めて日本人のわび、さび、わびる、さびるというものに対して受信をすると涙が出る。例えば延暦寺で実際にあった話なんです、接ぎ木を見て接ぎ木の色が違うから、柱の接ぎ木ですね。下は雨が降るから、石の上に置いていても雨が跳ねて腐ってくるから、

これぐらいを切り取って新しい木を入れて接ぎ木するんです。その接ぎ木の色がほぼ一緒。いつ接ぎ木したのか。約300年前やと言う。約300年前に接ぎ木した。涙が出る。これだけ木を大切に。すごい話ですよ。

(5) 世界文化遺産を最初につくったとき

世界文化遺産を最初につくったときには、日本の国の文化遺産の精度を検査しているのが結構きっかけになっていましたから、日本は江戸時代から国の文化遺産というのは、お寺をたくさん燃やしましたからね。お寺を大事にせんといかん。文化遺産制度というものが、だんだん無形文化財とか、生きている人間が文化財という見方を日本はしてくるんですよ。国連で初めて世界文化遺産の話をしたときには、自然文化遺産の話はみんなわかるんですよ。自然の恵みを大切にせんといかんから、川であったり、山であったり、沼であったり、これはみんな大切にせんといかん。すごくきれいなところとか、人間にとって何か潤い、優しさを与えてくれるものは世界に残さんといかん、どんどん自然破壊が進んでいる中で。それはわかるんですが、今度、人間がつくった文化遺産の話のときに、日本は木の文化なんですよ。国連はヨーロッパ中心やから、石の文化なんです。石は3,000年とか5,000年とか持つんです。木はそんな持たない。木は1,000年、1,500年ぐらい。木は5,000年、6,000年はなかなか持たないのです。正倉院は結構古いんですが、なかなか木というのは難しいんですよ。

特に日本が保ってきたのが、伊勢神宮を保ってきたんです。伊勢神宮は20年で潰して、新しいのを建てる。その建物自身が20年しかないんです。でも、その20年周期ですつつくっているのは1,000年を超えるんです。自分の山で自分の木をつくっているんです。その木の育て方も、受信して受信して、前の代から教えてもらって、ずっとやられている。だんだんヨーロッパの人がその話を聞いて、日本の文化の深さ。その文化の深さを極めた場所と言うたら京都です。

(6) 京都の17の文化遺産

京都の17の文化遺産、皆さん言えますか。国際観光大使ですから、17全部言えますよ。神社が2つあります。上賀茂神社と下鴨神社。特に上賀茂神社のさざれ石がちょっと大きくなったというニュースが、神社というのは毎日さざれ石の儀式をするんです。今、言うている話、分かりますか？ 君が代というのはわかると思います。石が岩となる、いわゆる石が大きくなる。どこの神

社にもさざれ石があって、毎日その石が大きくなる儀式をするんです。上賀茂神社は大きくなったというニュースがあったんですよ。だから、すごくさざれ石の好きな人間から見ると、上賀茂神社が世界遺産になってよかったなと。

残りは全部お寺なんですけど、1個だけ神社でもお寺でもないというのはご存知ですか。(挙手)「出身はどこですか。」京都市内。石川とか北海道とか言うたら知らんなど。京都です。神社ではない、お寺ではない文化遺産。(二条城)。ピンポン、二条城。後ろから助けてくれたで、ありがとう。二条城です。17の世界文化遺産が1つの街にあるというのは京都以外はないですね。

(7) 自分の受信力を味わって下さい。

とりあえず私は来て、この日本人のすごい受信力に驚きました。これが基本的に私たちの生き方なんです。きょう皆さんにぜひ自分の受信力というものを味わっていただきたい。皆さん、前に手を組んでいただけますか。その手の親指を見ていただきたいのです。右親指か左親指か、どっちが上になっているのか見ていただきたいんです。右親指が上になっている方。左親指が上になっている方。

ちょうど半々ぐらいです。実は70カ国の数十万人にこれをさして、大体人間は半々なんです。左利き右利きとは関係がない。左利きというのは7%ぐらいです。でも、これは半々なんです。(割愛)でも、私たちは自分が正しいと思いがちなんですよ。右上が何で正しいか。僕が右上やから。自分のものの見方が正しい。最初、日本に来たときにいっぱい驚きがあるんですよ。違うからね。最初は自分が正しいと思いがちなんですよ。(割愛)人間というのは何でも自分がなれているものに自分が満足というか、ほかのものに目を向けられないというのがある。(割愛)

じゃ皆さん、それも体験しましょう。反対に組んでください。理想の学生ですね。皆さん1回目前に手を組んでくださいと言うと、みんな僕の顔を見ながら手を組んだ。2回目反対に組んでくださいと言うたら、ほとんどの方が自分の手を見た。めっちゃ見てた。どうするみたいな顔してね。いわゆる普段の自分と違う自分をつくらうと思ったら、意識が働かないといけななんです。

6. 人類の存続に係る、 深刻な地球環境問題の解決を目指して

(1) 京都の極めた受信力を世界に発信しないとイケない

今の時代というのは、環境問題というのは人類が絶滅するかしらないかという大きな問題、環境が変わっていく。世界規模で気候変動、大気が温かくなる、温室効果ガスがふえて、温暖化の中で気候が変化していく気候変動。環境が変わっていく、これが多分一番大きな人間にとっての大事な問題なんですけど、私たちが自分の生活の中でどう取り組んでいくか。そうすると、私は日本に来たときから、下宿のおばさんが毎日手を合わせて、「お天道様ありがとう。きょうも1日よろしくお願いします」。基本的に自然界に対するありがたい気持ち、酸素ありがとう、重力ありがとう、お天道様ありがとう、食べ物に対していただきますというのは命のある動植物の命をいただいて自分が生きることに対して、その生き物に対してのいただきます。非常に日本人はもともと自然界に対する文化というものを今の時代に生かさないといけな、世界規模で。これが矛盾するんです。

受信力を発信しないとイケない。受信力について世界に発信しないとイケない。僕は頑張って本を書きましたけど、日本語で書きました。世界に対する発信にはなっていない。日本人だけに最初発信した。

(2) 京都は受信力を育むための最良の地

でも、私たちは本当は京都という場所において、すごい受信力を身につけられる機会が多くて、世界に環境との接し方、食べ物との基本的な接し方を本当は教えないといけなと思います。下宿のおばさんが、七分目でいい。腹は七分目まで。アメリカ人は大体十二、三分まで。だから、だんだん大きくなるんです。どんどん大きくなるんです。日本人の中にはだんだん肥満体の人がふえているんですけど、アメリカはびっくりする。飛行機の座席に入らへん。この教室の椅子は肘掛がないからよかつたんやな。この椅子だったら幾ら大きい人でも座れるんですよ。

(3) 日本人学生、小堀君との初めての出会いと交わり

日本に来ると、日本人のすごい力というのを感じるんです。日本人と初めて会って、しゃべったのは、山手線に乗ってから降りて、たばこを買った時です。当時、たばこを1日五、六十本吸ってました。18から吸い出して(州の法律で18から買える)、母もヘビースモー

カーで、私もすぐ癖になって、50本というたら2箱半です。1箱20本です。2箱半ぐらい吸っていました。

たばこ屋さんを見つけて、たばこ屋さんでどんなたばこを買おうかな。全然わからないから、たばこのパックの小さいのは多分フィルターがついてない。フィルターがついてないたばこを吸っていましたから、フィルターがついてないたばこを見て、これください。日本語ちょっとしかできないから、これください。70円でした。いこいというたばこでした。70円で、覚えていらっしゃる方、100円札。板垣退助さんの100円札を出して、30円のおつりをもらって、いこいというたばこをもらって、ありがとう、日本語を使って初めて買い物ができる。

そして、そのときに自分と同じぐらい、20歳ぐらいの日本の学生がやってきて、その学生がいこいください。見たら同じ銘柄を買っているんです。これが私にとって日本という国が嫌ほど人間関係を結ぶ国になるんです。人間関係中心文化なんです。(中略)

その日に、同じ銘柄、同じたばこ屋さん、同じ時に買うなんて、これは一生の出会い、ご縁だ。自分の気持ちから言うよね。なかなかダコタ州にはない。隣まで3キロですよ。そこで声をかけたんです。Excuse me. Do you understand English? No. 英語聞き取って理解して、英語で返事する。でも、返事の内容がわからない。わかっているから返事できるやないか。Are you a student? Yes. 話が続くやん。これは京都の人、日本人は世界一だと思えます。腰が低い、謙虚さ。日本人は9までできて、できない1が気になる。今まで日本人と出会って、ちょっとその日本人と英語をしゃべる機会があって、「英語うまいですね」と言うたら、「いやいや、まだまだです。ニューヨークに19年間住んでましたけど」。ニューヨーク19年間で、まだまだです。アメリカ人はその逆です。9までできなくても、1できたらできると言うんです。アメリカ人に、日本語できる？ さいなら、この1語だけ知ってるねん。それがイエスになる。日本語できる。日本語1語知っている。全く違うから、この発信者責任でできるというのと、全く違う。

小堀君という名前でしたが、その学生が言う。my house OK? 一緒に行ったんです。初めて日本の家に上がる。玄関を初めて見る。道に扉が面している。アスファルトで扉。すごい狭い国に来たなと思った。横に開けて、中に入ってから上がる。小堀君が歩きながら上がったから、僕も歩きながら上がったら、彼は「シューズ」と言う。見たら小堀君は歩きながら脱いだ。すごい。歩

きながら脱げるものか。運動靴の後ろを踏み潰して、紐を結んだままで上がっているんですよ。アメリカは20年間でそういうのを見たことない、聞いたこともない、立ったままで脱いだことがない。靴を脱ぐのも履くのも寝室なんです。朝起きて、シャワーを浴びて、服を着て、クローゼットのところから靴を取って、ベッドの横の椅子に座って靴を履くんです。ホテルのベッドの横に椅子があるのは、あれは靴の椅子なんです。夜ずっと夕食のときでも靴を履いているんです。テレビを見てても靴を履いているんです。寝る前に、同じ椅子に座って靴を脱ぐ。いつも座って脱ぐか座って履く。歩きながら、すごい。

初めてスリッパを履く。アメリカ人の歩き方をするとスリッパが飛ぶんです、かかとを下ろすから。でも、受信すると、すべらす。なるほど、これだったらいいな。

皆さん、さっき反対に手を組んだときに、自分の手を見た。見た方が多いです。意識が働く。人から受信する。もう一つ、違和感を感じませんでしたか。違和感を感じるというのが勉強になる前触れなんです。だから、受信力のある京都の人は前触れをすごく大事にするんです。違和感を感じたときに何か勉強になる。普段の自分と違った常識をここで学ぶことができる。だから、私は日本に来て、いっぱい違和感を感じるんです。

食べ物に対する違和感、初めて食べる朝食、みんな初めて。白いご飯初めて、白いご飯初めてですよ。おじゃこ、パッチリ目が開いてる。味噌汁をどうやって箸で食べるのか。違和感だらけ。だんだん日本での生活が長くなると朝、目が覚めて味噌汁の香りがすると、ああ生きてよかった。炊きたてのご飯がめっちゃうまい。魚中心の食生活。魚、ご飯、炊き野菜。日本人はもともと生野菜は食べへんのです。お漬けもんか炊き野菜ですね。本当は生野菜も取りすぎたらあかんのでしょうか。酸が上がるでしょう。専門家じゃないから分かりませんが、この間、テレビで言われていました。あんまり生野菜を食べすぎたらいかん。

7. 京都で積極的に受信力を育み、 社会に世界に積極的に発信し活かしていこう

日本に来ると違和感がいっぱい、違和感からどんどん私は新しい自分をつくっていった。皆さんのおかげです。皆さんもきょうの私の話をきっかけに、これからもっと京都のすばらしい文化、京都の中に同志社という古い大学、その中に同志社女子大学、その中で環境との対応の仕方を中心に学ぶ学生がいるということを皆さんも

頭にしっかりインプットして、20周年おめでとうございます。これからも長く私たちが対応の仕方、受信型の自分を再確認しながら、もっと受信力を生かしていくという生き方を皆さんにぜひお勧めしたいと思います。

じゃこの辺で終わります。ありがとうございました。(拍手)

司会 先生、ありがとうございました。何かご質問はございませんか。

質問 A 先生のお話の中に出てこなかったんですけども、僕は長野県の出身で、京都に来て、僕の友人が下宿をしたんです。彼は「行ってまいります」と言ってお出かけるとき、その下宿のおばちゃんが「おはようおかえりやす」と言った。彼はそれをものすごく気に入っていて、そんな理由がどうか分かりませんが、彼は2年生のときに自殺したんですけども、先生がもし「おはようおかえりやす」と言われたらどういう反応をしますか。

ジェフ 「おはようおかえりやす」というのは、いつてらっしゃい、早く帰ってきてという意味なんです、特に西陣言葉としてよく使われるんです。私、お勧めなのが、ひらのりょうこさんという詩人、インターネットで見つからへんかったら、僕の本の中に載せていますが、ひらのりょうこさんの「おはようおかえりやす」という詩、ひらのりょうこさんがその詩の中で、満州で生まれて、満州で自分が人に渡されて、親が残って、日本に帰ってきているんですよ。西陣で大きくなって、親が満州で亡くなっているんですね。その詩の一番最後は、「満州で亡くなった父母にそっとつぶやく、おはようおかえりやす」。だから、おはようおかえりやすというのは非常に僕にとっては深い言葉なんです。おはようおかえりやすというのは、人間関係が非常に大事な中で、あなたがいないと私は困るから、早く帰ってきてという極めた人間関係の言葉だと思うんです。いつてらっしゃいというのは、行っていらっしゃい、行って帰ってきなさいよという意味ですね。同じようにはおはようおかえりやすというのは早く帰ってきてと。

私が京都で好きなのは、すごく近所の人がかかる言葉なんです。僕、今、住んでいる場所が古い家が多いので、うちの家族じゃない人が、「おはようおかえりやす」と言ってくれるとすごくうれしいんです。僕はおはようおかえりやすというのは、京都の人間関係を極めた一つの挨拶だと感じて、とても心打たれる言葉として感じます。

質問 A そういう先生の解釈を聞くと、なるほどと思うんですけども、彼は俺は毎日早く帰っているのに何でそう言われるのやという受けとめ方をしていたんですね。

ジェフ なるほど。彼が亡くなったことは残念ですが、彼は重く受けとめていたんですね。時間的に早くという意味と、人間関係として早く帰ってきてほしいという意味を勘違いして本当に残念でした。僕はすごくいい言葉だと思っています。

質問 B どうもありがとうございました。

私が思いましたのは、この受信力というものはこれだけで、単独で存在するのか。(割愛)やはり受信することは積極的にやりながら、やはり積極的に発信していく。自分自身の知情意と言っているものを、意は意見とか意味とか、そういうものを駆使してやはり発信していく、そこに人間の価値があると思うんですが、いかがでしょうか。

ジェフ 講演会というのは受信側に回っている。私は発信しっぱなしです。皆さんは受信しっぱなしです。それが今、発信をいっぱいしてくればったことは、多分皆さんが同じ気持ちですよ。皆さんが応援の目で見たいと思うんです。

コミュニケーションは発信と受信の繰り返しです。人間は受信して生きているんですが、発信しないといけない。発信は自分の生き方、自分のすること、自分の使っている言葉。私がかょう一番受信を中心に持ってくるのは、私は発信者責任型の発信しっぱなしであんまり受信しないという気持ちのアメリカから来て、日本人のすごい受信力に驚いた。そして、その受信の仕方。非常に深く受信していく京都の文化というものに私は感銘を受けた。

でも、確かに今、言われたように、人間は受信と発信。食べ物で言うと、受信は食べる、よく噛む、そして体の中に入っていきますね。You are what you eat. その食べ物が自分の身となっていきます。発信というのはどんな発信かという、細胞分裂、または血管の中に酸素を運んで、一つ一つの細胞の中でその食べたものが糖となって、糖は細胞の中で酸素と一緒に燃やして燃やす。その燃やすのが自分たちの生きる気力と元気。その発信というのは細胞レベルで人間は発信しています。受信したものをしっかり燃やす。そして、うんちやおしっこを出す。二酸化炭素を吐く。これは全部自然界がまたそれを受けて、それを肥料に変えたり、酸素に変えたりしてくれる。

多分人間同士の話、人間は発信しないといけない。当然日本人は世界一の受信力なんです、発信しないといけない。でも、きょうのテーマが、発信力の大切さではなくて、受信力、低下していくのを日本の中で見ると、日本人が自分の受信力の強さをもう一遍再確認しないといけない。当然発信力、当然明確に皆さんが見える形で自分が発信する、動く、しゃべる、指示をする、政策を出す、当然こういう発信型の人間は日本でどんどん高く評価されていくんですが、私は若い人がだんだん受信力がなくなっていくことを懸念している。やっぱり世界一の受信者責任型文化をつくってきたことをまずもう一遍再確認して、そして発信力をつける。

安倍内閣が英語を小学校で教えることを義務づけしました。僕は反対だったんですが、教え方として。今の政府の言い方は、日本人はコミュニケーションが下手やから、国際社会の中でコミュニケーションをうまくとるためには英語を使わないといけないから。この言い方が僕は嫌いです。日本人は世界一の受信力、1を聞いて10を読む力を持っている。場を読む、間を読む、人の顔色を読む、これは世界一。でも、今の指摘どおりです。発信力は乏しい。受信、受信ばかりしてて、今、息詰まるという言い方をしましたけど、人間関係で息詰まっている京都の人がいっぱいいるのです。息苦しいと感ずるんです。発信しないといけない。

だから受信力を確認した上で発信力を英語でつけるの

は大賛成なんです。子どもたちに、あなたたちは世界一のコミュニケーション文化に生まれたんですよ。でも、それは受信型のコミュニケーションの世界一。発信は日本人は乏しい。もっと発信せんといかん。その発信は英語でしましょう。英語で喧嘩して日本語で仲直りする、これぐらいの気持ちを持つ。

だから、僕も発信しないといけないと思います。今の質問のとおりだと思います。発信型の日本人がふえていくことが今の時代には必要なことだと、それも感じます。でも、国連の明石さんとか緒方貞子さんとか、非常に受信型。今の潘基文さん、韓国の方なんですが、この人もすごい受信型の人なんです。受信中心なんです。人の話を聞くのが中心なんです。そういう受信力というのは世界平和につながっていくことを信じて、京都の極めた受信力というものも捨てたものではない。ただ、今、ちょっと質問で補ってくれはったんです。発信もしないといけない。人間は発信しなかったら、受信したものがいっぱいですから、発信というのは自分の生き方で発信する。全部言葉でなくてもいいんですよ。生き方で発信する。特に今日ここにご来場の皆様からぜひ生き方で発信して頂けたら嬉しいです。

司会 ありがとうございます。

最後にもう一度先生に拍手をお願いいたします。(拍手)